

どうせ…
口癖の子が
います。

「どうせ」について

記事内容はわたし個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

ご意見などの宛先 horikawassw@gmail.com



どうせ が口癖の人は、自分に悲観的なイメージを持っていることが多いようです。

そのマイナスイメージを失くして上げることは難しいかも知れません。でも、自分を否定しながら生きて行くのは、とてもつらい事だから、口癖だけでも直してあげて、気持ちだけでも楽に上げて欲しいのです。

☆1

変わってもらうにはまず、自分に「**どうせ**…」という口癖があることに気づき、それを変えたいと思ってもらう必要があります。「また、**どうせ**と言ったよ」「**きっと**…の方が良いよ。その方が気持ちだけでも楽になるから」と声を掛けて欲しいのです。

どうして気持ちが楽になるのでしょうか。

★2

どうせ も **きっと** も、将来を予測する言葉ですが、大きく違いますか？

どうせ と言うのは、自分にとってマイナスな結果が起きると予測しているからで、そのマイナスを受け止める心の準備をしているか、そのように言訳して逃げ出そうとしていると思われます。

失敗して恥をかかないように、予告することで何か言われても良いようにしている。

☆3

もしかすると、うまく行かない事があると、**おとなが先回りして代わりに**してくれたのかも知れません。

どんな子も、初めての事はうまく行かないものです。それを手助けするのは、親切だと思われがちですが、子どもの失敗は、自立に必要な失敗であることが多いのです。

失敗を繰り返し、その都度、やり方を教えてもらって、**次に失敗しないように**ガンバルことでできることを増やして行くのです。

その学びの機会を奪うことは、親切ではありません。勿論、頑張ってもできないこともあります。できるところまでやらせて、少しだけ手伝って、続きをやらせてあげることが本来の親切ではないでしょうか。

宿題の答えを教えて書かせることは、この大きなお世話に当たります。

子どもが抱える問題はどれも、失敗しても大丈夫なくらい小さなものです。そうやって将来、取り返しのつかない失敗をさせないために、**きっと**役に立ちますから。

